

『アウトドア・アクティビティ拠点施設』が いよいよ今年オープン予定!

オープンに先駆けて、留萌で出来る
アウトドアアクティビティを紹介していきます！



今月のインタビュー

一般社団法人Upward
雪育デイキャンプ実行委員会

かど や ひろ あき
角 谷 浩 明 さん

プロフィール

出身地／留萌市

略歴：2015年 留萌スキー連盟と雪育デイキャンプの企画・立案

2020年 株北海道日本ハムファイターズ雪のスポンサーとコラボ開催

2022年～公益財団法人北海道スキー連盟オフィシャル
スポンサーとの共催

雪育デイキャンプを始めたきっかけを教えてください。

私自身がアルペンスキーチーム「留萌ジュニアしじみRC」の監督をしています。

かつてアルペンスキーでは、全国大会優勝や入賞する選手を数多く輩出していましたが、神居岩スキー場のリフト運行中止、市民スキー場の廃止を受け、団員数がゼロになり歴史が途絶えてしまいました。この頃よりクロスカントリー少年団の団員数も大幅に激減。雪国にいながら、子どもたちの雪と遊ぶきっかけがなく、「これはどうにかしないといけない」と思い、アルペンスキー、クロスカントリー、コンバインド(ジャンプとクロスカントリー)の有志らとともに、ウインタースポーツやアウトドア人口を増やしたいという思いから実行委員会を立ち上げました。

雪育デイキャンプの歴史を教えてください。

1年目の2015年は20～30人ほどの参加でした。その後、毎年10～20人ほど参加者が増えていき、2020年の参加申込者がこれまで最多の130人となりましたがコロナ禍により中止となりました。

開始当初はアルペン、クロカン、ジャンプブース、留萌市内の企業に支援をいただき、ジャンボ滑り台も準備しました。その後も市内の様々な団体の皆さんのご協力の元、子どもや大人も楽しめるイベントに発展しました。このイベントをきっかけに、クロスカントリーにおいてジュニアオリンピックで優勝する子や、アルペンにおいて日本代表に選出され世界大会に出場する子も出ています。

今は夏に楽しむバナナボートやSUPを雪の上で遊ぶなど、スキーを持参しなくても雪と親しみ、雪と遊ぶことができる内容になっています。音楽を流したり、市内の飲食店やキッチンカーを呼び込んだりと、フェスの雰囲気を感じられるイベントとなっております。

子どもたちが
雪に親しむイベ
ントに



▲2025年3月に神居岩スキー場で開かれた第10回雪育フェス

今後の雪育ディキャンプについて教えてください。

継続することが何より一番大切だと思います。地方のスキー場のリフト券が高騰しているので、留萌の環境を活かし、多くの皆さんのサポートをいただきながら、ウインタースポーツアウトドアのきっかけづくりになるように、継続していきたいと思います。

自分のペースで山に登りスキーを楽しんだり、音楽を流しながら地元の美味しい物を食べたり、留萌の自然を感じつつ、非日常的な空間を、子どもと親御さん、おじいちゃん、おばあちゃんも含めて家族で楽しめるイベントにしていきたいと思います。

アウトドア・アクティビティ拠点施設に何を期待しますか。

留萌市内は野球、サッカー、卓球、吹奏楽、空手、テニス、柔道に剣道など各分野で子どもたちだけではなく、選手はもちろんの事、それを支えている指導者や親御さん、市内企業の皆さんも取り組む姿勢が熱く、非常に熱心にサポートをされています。

各団体や個人が出来る努力はもちろんですが、モンベルのユニフォームを一定割合で提供すると、全道、全国、世界で活躍する留萌の子どもたちが、モンベルの広告にも繋がると思います。

「留萌はどのスポーツや文化活動も子どもたち頑張っているよ！」というところを、モンベルや拠点施設を通じて発信していけたらと思います。

また、夏の海でのSUPを通じて子どもたちの心身の充実やバランス感覚、トレーニング環境など、地元の子どもたちに安心安全な遊びの場の環境づくりを期待します。

モンベルアウトドアヴィレッジについては、
留萌市ホームページよりご覧ください。

留萌市
ホームページ
のQR▶



成長する「道の駅るもい」！新たな賑わい拠点の建設レポート

留萌市は、令和8年夏ごろのオープンを目指し、道の駅るもいエリアに新たな「アウトドア・アクティビティ拠点施設」の整備を進めています。

写真はドローンで空から撮影したものです。現在、鉄骨が立ち上がり、建物の輪郭が少しづつ姿を現し始めています！日に日に形が整っていく様子は、完成後の新しい空間を想像させ、胸が高鳴ります。これからも、皆さんに喜んでいただける施設を目指して整備を進めてまいります。

市民の皆さんも、日々姿を変える“成長していく道の駅”に、ぜひご注目ください！

